



このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。
架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に活かしてください。

架け橋プログラム だより

年長から1年生へ
子どもが安心して入学できるよう
「安心の連携」をすすめましょう

小学校では入学説明会も終わり、次年度の入学に向けて準備が進んでいることと思います。また、子どもたち一人ひとりが安心して入学できるように、園と学校での引継ぎ等、先生方同士の連携が進んでいると思います。今回は、「安心の連携」について、市内の様々な地区で実践されている取組を紹介します。



年長懇談会に小学校の先生が出席し安心感へ

保護者の安心が 子どもの安心へ♡



ある地区では、園の年長懇談会に1年担任が参加しています。1年担任は「幼保小の架け橋プログラム」について説明し、小学校では、遊びを通して育まれた園での育ちと学びをゆるやかにつなげることを大切にしている具体的な話を保護者に伝えていました。「入学までにできるようにしておくことは？」という保護者の質問に対して、「ひらがなや数字を覚えておく必要はありません。ありのままで大丈夫。困った時に困っている、と言えるといいですね。」とこたえていました。

また、年長クラスの中でもすでに小学生のお子さんがある保護者の方が、初めて小学校に入学させる保護者に対して、「心配しなくても大丈夫ですよ」とアドバイスしている様子もありました。大人たちが「安心の連携」をつないでいました。

※学校によっては、管理職、児童支援専任等が年長クラスの懇談会に参加しているところもあります。



専任の園訪問と引継ぎで安心感を

入学後も園の先生と連携できる信頼関係が生まれます！

児童支援専任や養護教諭、1年生担当、管理職の先生方が、1月ごろから引継ぎを行っていると思います。引継ぎが、より子どもの安心につながるよう、ある学校の学校だよりに載っていた「専任コーナー」を紹介します。

『小学校の教職員が各園に伺い、園での育ちを引き継ぎます。園での活動や経験を参考に、新1年生の学びを創ることを4月は特に意識しています。引継ぎの際には成長した点やよく頑張っていた点を大切にしています。また、新年度のスタートは0からのスタートではなく、前年度から積み上げて来たものが土台にあることを大切にスタートします。』



学校に「ちょっと寄るお散歩」も安心感につながる交流に

校庭の周り、花壇、飼育小屋、学校図書館など、直接子ども同士が交流しなくても、園児は学校という環境を身近に感じ、安心感をもちます。園長先生、校長先生の連携が子どもの安心感につながります。同じブロックでなくても、園から声がかかったら、ぜひ「お散歩どうぞ」と伝えてあげてください。「気軽に」を合言葉に♡

